

続・卓球ボール

セルロイドハウス横浜館の卓球コーナーに卓球情報紙「卓球王国」が展示してあります。平成 26 年 3 月 21 日発売「5 月号・トピックス」が大変参考になりましたので転記させていただきました。

待たれる国産のプラスチックボール

I T T F (国際卓球連盟) が 2014 年 7 月 1 日から導入を予定しているプラスチックボール。I T T F は 2 月に 3 社に対し初の認可(approval)を与えたが、2 月にさらに P alio (中国) が公認された。

すでに認可されているプラスチックボール (ブランド) は、「D H S 40+」(中国・紅双喜)、「D o u b l e F i s h 40+」(中国・双魚)、「X u s h a o f a」(中国・許招発)で、紅双喜と双魚のボールは継ぎ目 (シーム) のあるもので、許招発と 2 月に認可された P alio のボールは継ぎ目のない (シームレス) ものだ。

3 月 8 日に開かれた (公財) 日本卓球協会第 4 回理事会でも、今年の全国ラージボール大会 (7 月 3~6 日/岡山) や他の一部の全国大会ではセルロイドボールとプラスチックボールの両方を併用していく方向が確認されたが、日本製の I T T F 公認のプラスチックボールがまだないことに頭を痛めているのが現状だ。

ルール上は、規格を満たしていればセルロイドでもプラスチックでも同時に大会で使用できる。

「40mm のプラスチックボールはセルロイドと打球感はほとんど同じ」という意見も理事会にあったが、試打したトップ選手と役員の人では感覚に隔たりがあるようだ。

その打球感の違いゆえに、仮に同じ大会で 2 種類のボールが混在すると、選手の混乱は必至となるであろう。

(卓球王国・平成 26 年 5 月号 24 頁)